

令和4年度 金光大阪中学校・高等学校 学校評価報告書

1. めざす学校像

建学の精神	「人はみな神の氏子である」という金光教祖の広大かつ自然な教えにもとづき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う
教育理念	「人間平等」「個性尊重」「心を育む」教育の実践 朝の祈りの成就 ＜朝の祈り＞ ・限りない天地のみ恵と 父母をはじめとする人類社会の恩恵に 深い感謝と喜びの心をもたせてください。 ・心身ともに健やかに 礼儀と規律を重んじ より良き習慣を身につけさせてください。 ・新たな勉学への意欲をもって 真実を学び求め 大切なところを分らせてください。 ・共に思いやり、助け合い、信じ合って、明るく豊かな学校生活を送らせてください。 ・どんなに辛い苦しいことに出会っても 負けることなく元気な心で生き抜く力を与えてください。 ・人、物、時間を大切にし 少しでも世と人の助かるお役に立つ人間にならせてください。

2. 中期的目標

1. 豊かな人間性の育成

建学の精神に基づき、「人間平等」「個性尊重」「心を育む」教育の実践。

ア. 建学の精神に基づき、教育の主軸として、「人間平等」「個性尊重」「心を育む」を掲げ、宗教情操教育をはじめとする学校教育全般を通じて、互いの個性を認め、支えあう人間関係を作る。

イ. いじめ問題、差別問題を生徒が自分の問題として考え、その解決を目指す力を育てる。

2. 生徒の主体的な活動の推進と学校文化の醸成

ア. 学校教育全体を通して、自ら考え行動できる力を養い、自己肯定感を育む。

イ. 生徒会を中心とした学校行事の活性化。

※各行事終了後アンケートにおいて、「達成感」「満足感」項目 4.1（75%）以上を維持し、令和6年度には4.2（80%）以上とする。

3. 次代を生き抜く確かな学力の育成

ア. 学習成果が、生徒一人ひとりの進路の展望につながる授業を推進する。

イ. 自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、日常の教科学習への興味・関心を高める。

ウ. 希望進路、習熟度に応じた効果的な授業・講習の展開。

エ. 生徒一人ひとりに寄り添った丁寧な進路・学習指導の継続。

※生徒アンケート教科学習に対する「丁寧な対応」、「適切な授業レベル」、「教員の熱意」の肯定回答率 4.2（80%）以上、「向上への意欲」の肯定回答率 4.0（70%）以上を令和6年度に達成する。

4. 「部活動に係わる基本方針」に則った部活動の推進

ア. 活動・経験を通じて各自のニーズに応じた豊かな学校生活の実現。

イ. 生きる力の育成と心身にバランスのとれた人としての成長。

ウ. 合理的かつ効率的・効果的な活動の推進。

※新入生の部活動加入率 80%、卒部率 90%以上としそれを維持していく。

5. 異文化理解と多文化共生の考えを養う国際理解教育の推進。

6. 教員の自己研鑽の推進と指導力向上

ア. 校内研修の推進と研究授業の充実

イ. 校外研修への積極的な参加。

※校内研修は最低年3回実施。毎年全教科研究授業を行い、教師間で切磋琢磨に努める。令和6年度には生徒アンケート「わかりやすい説明」「教材の工夫」についての肯定回答を90%以上にする。また、延べ100名の校外研修への参加を目指す。

自己評価アンケートの結果と分析	
全教職員 110 名より 12 項目 27 指標の回答を得た。結果 27 指標中、25 指標が 90%を超える回答であった。その中で特に指標 1 から指標 3 までの回答が、100%達成でなかったのが危惧するところであり、反省すると共に本校の情操教育を浸透させていきたい。	
学校評価委員会からの意見	
食堂のパーティションはいつ外す予定か。(まだわからない。5/8 以降の対応について、今後、府教育庁より通達が来る予定。内容見て判断する。) ・自習室の開放時間の延長は可能か。(完全下校時間の関係で延長できない。) ・食堂のテイクアウトは可能か。(可能、タッパーに入れて教室に持っていける。) ・学校評価について回答が d (まったくあてはまらない) についての対応は。(例年少数意見としてこのような回答がある。少数意見は尊重するが、質問に対しての解釈の仕方が教職員によって違うのが現状。) ・学校評価について聞き方を変えることで回答結果が変わるのでは。(数年前に主語を私は～、学校は～に明確にした。) ・新型コロナウイルス対応について、引き続き危機感を持ってほしい。(承知しております。)	

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中 期 的 目 標	今年度の 重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 豊かな人間性の育成	ア. 互いの個性を認め、尊重しあう人間関係を作る。	ア. 建学の精神に基づき、教育の柱として「人間平等」「個性尊重」「心を育てる」を掲げ、学校教育全般において、互いの個性を認め、尊重しあう人間関係を築く。	ア. 学校生活アンケートの「友人関係」について、90%以上、最終的に 100%が「安心できるもの」とする。	ア. 6.9%の生徒が、「友人関係」に不安を感じている。コロナ禍の影響も考えられるが、様々な活動を通じて良好な関係を築きたい。 (○)
	イ. いじめ問題、差別問題を一人ひとりの問題とし、その解決を目指す力を育成する。	イ. 年度始めの人権教育推進委員会において生徒への指導計画を作成。人権教育推進委員会やいじめ防止対策推進委員会を定期的に開催し、生徒にいじめ問題、差別問題を一人ひとりの問題と考えさせ、その解決を目指す力を育成する。	イ. アンケート「いじめを受けた事がない」において、100%が「受けた事がない」と回答する。	イ. いじめの生徒指導案件は 0 件。しかし、アンケート結果からは、「いじめを受けたことが無」は 98.4%。「いじめを受けたことがある」は 1.6%と昨年より下がっているが、日々の生徒の様子を見る必要がある。(○)
	ウ. 「部活動に係わる基本方針」に則った部活動の推進	ウ. 合理的かつ効率的・効果的な活動を推進。活動・経験を通じて各自のニーズに応じた豊かな学校生活の実現をめざし、生きる力の育成と心身にバランスのとれた人間的な成長を図る。	ウ. 新入生の部活動加入率を 80%、卒部率 90%以上としそれを維持していく。 ・数学甲子園への参加。	ウ. 本年度、新入生部活動加入率は 82%、卒部率 90%と高い数値を示している。高校全体の加入率は 75%。 ・数学甲子園への参加はできなかった。 また、数検受験者が 103 名と多くの生徒が受験した。 合格者数、2 級 23 名 準 2 級 80 名

				まだ、数学甲子園への参加は達成できていない。 (◎)
2. 生徒の主体的な活動の推進と 学校文化の醸成	ア. 学校教育全体を通して、自ら考え行動できる力を養い、自己肯定感を育む。 イ. 生徒会を中心とした学校行事の活性化。	ア. 生徒主体の学校生活を更に推し進め、企画力を養い、達成感を高める。また、それらをキャリアパスポートを用い振り返らせ自己肯定感を養う。 イ. 上記ア. の実現のためにも、今まで以上に生徒会活動を活性化させ、学校行事を通して生徒の人間的成长を図る。生徒文化を積み上げ、将来の学校文化、伝統をつくる。	ア. キャリアパスポートにおける主体的に取り組んだ項目を最低3項目/年以上挙げられるようにする。 イ. 学校生活について「満足度調査」を行い、満足度数値90%以上を目指す。 ウ. 新たな学校行事を立案、計画、実行する。	ア. ほとんどの生徒が、主体的に取り組んだ項目が3項目以上挙げられている。(◎) イ. 修学旅行に関しては、カナダからの変更であったが、81%が満足していると回答した。(○) ウ. 各学年独自の学年企画を行った。(◎)
3. 次代を生き抜く確かな学力の育成	ア. 学習成果が進路展望につながる授業を推進する。 イ. 自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、授業への興味・関心を高める。 ウ. 希望進路、習熟度に応じた効果的な授業・講習の展開。 エ. 生徒一人ひとりに寄り添った丁寧な進路・学習指導の継続。 オ. 異文化理解と多文化共生の考えを養う国際理解教育の推進	ア. 授業・講習、部活動の時間を精査し、生徒自身がタイムマネジメントの中で自学自習の時間の確保を図れるようにする。また、自らの意志で創意工夫をしながら学び続ける姿勢を養うため、自習室をはじめ、校内での自学自習環境を整え、授業との有機的な連携を図る。 イ. 「すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う」という建学の精神に基づき、学校教育活動全般に亘ってキャリア教育を行う。自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、教科学習への興味・関心を高める。 ウ. 日常的に課題・小テストを実施し、その取り組み状況の把握を行い、学習指導に活用する。学習意欲の高い生徒に対して、早朝・放課後の進学講習を実施し、さらに学力を伸ばしていく。また、中高とも、到達度の低い生徒に対して補習を行い、日々の授業をわかるものにしていく。 エ. 定期的な面談に加え、日常的に生徒への進路・学習指導を行う時間の確保する。 オ. 中学 NZ 一ヶ月留学、高校 CAN 修学旅行をはじめとする海外プログラムを通して、英語学習への動機付けを行う。英語技能検定対策講座などのプログラムの充実を図り、学校全体として「使える英語力」の向上に努める。また、英検受験率を更に上げる。	ア. 生徒アンケート「授業への集中」項目の肯定回答4.2(80%)以上。 イ. 生徒アンケート各教科に対する「興味・関心」の項目において肯定の回答が全科目平均4.2(80%)以上。 ウ. 生徒アンケート「適切な授業のレベル」に関する項目の肯定回答が全科目平均4.2(80%)以上。 エ. 生徒との二者面談を毎学期2回以上行い、希望進路と学習状況を確認する。アンケート「丁寧な対応」4.2(80%)以上。 オ. 英語科授業アンケート「向上への意欲」項目の肯定回答4.0(70%)以上。	ア. 「授業への集中」は、4.4(中学)4.3(高校)の回答を得た。全体的に落ち着いた中、授業が展開されている。質の高い授業が望まれる。(◎) イ. 昨年度より0.1ポイント上がり4.1となった。更なる改善が必要。(○) ウ. 4.34(中学)4.4(高校)平均値より高い数値を残している。(○) エ. 懇談実施率は例年通り100%(◎) オ. CAN 修学旅行、夏季語学研修は、コロナ禍のため中止。延期されていたNZ 短期留学をCANに変更し12月に実施。

			・英検受験延べ人数 350名。	英検に関しては、本年度、目標数値を上回る371名の生徒が受験した。 合格者数 2級 17名 準2級 57名 3級 35名 第1回模擬国連金光大会開催。(◎)
4. 教員の自己研鑽の推進と指導力向上	ア. 指導力向上のための研修開催。 イ. 教科教授法の多角的な研究の推進。	ア. 学校および法人レベルでの研修を通し、教員が建学の精神を理解し、学園の教育方針に沿った指導力を向上させ、各種研修会、学校見学会に参加し教師としての力量を高める。 イ. 校内研修の充実を図り、互いの教授法についての研鑽に努める。また、校外研修に積極的に参加し、教科教授法の多角的な研究を行うことで、授業力の向上を目指す。	ア. 校外研修への参加数、延べ100人以上。 イ. 全教科において研究授業を実施。生徒アンケート「授業の工夫」、「話し方の良否」、「教材の工夫」に関する項目の肯定回答それぞれ4.45(90%)以上。	ア. リモート研修が増えたため、校外研修は延べ44人となった。(△) イ. 校内研修は、研究授業はじめ、ICT研修他、予定通り行えた。(◎)